

第1章 理念・目的

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt + Enterで簡条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
(1) 付属機関等の理念・目的は適切に設定されているか						
a ◎高等教育機関として大学が追及すべき目的(建学の精神、教育理念、使命)を踏まえて、当該付属機関・委員会の理念・目的を設定していること。 【約500字】	平和教育登戸研究所資料館は、旧陸軍登戸研究所が使用した施設を保存・活用し、戦争のあらゆる側面を見つめ、後世に語り継ぐことを通じて、本学の『権利自由』『独立自治』の基本理念のもとに歴史教育・平和教育・科学教育を展開する。あわせて市民との連携の場として活用する。登戸研究所にまつわる関係者の証言、資料等を調査し、記録を後世に伝えると共に、結果を広く公開し、歴史教育・平和教育・科学教育の発信地とすることを目的とする。資料館の理念・目的は明確に定められており、リーフレット【1-46-1】、ホームページ【1-46-2】、ガイドブック【1-46-3,4頁】で学内外に広く公開している。 実績や資源から見た理念・目的の適切性としては、開館4年目にして約3万1千人の来館者を数え、アンケート等からも高く評価されており、資料館設立の理念と目的は支持されている。【1-46-4: 62~64頁】 個性化への対応としては、大学キャンパス内にある戦争遺跡そのものを保存し、資料館として活用する事例は、国内初であり、また登戸研究所という秘密戦を担っていた研究機関の性格上、他に類をみない特色的な展示を行なっている。					1-46-1 明治大学平和教育登戸研究所資料館リーフレット 1-46-2 平和教育登戸研究所資料館ホームページ「設立趣旨」 http://www.meiji.ac.jp/noborito/mean/index.html 1-46-3 平和教育登戸研究所資料館ガイドブック 1-46-4 2013年度平和教育登戸研究所資料館年次報告書
(2) 付属機関等の理念・目的が、教職員及び学生に周知され社会に公表しているか						
a ◎公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること 【約150字】	構成員に対する周知方法と有効性については、本学ホームページ及び資料館刊行物の「平和教育登戸研究所資料館だより」【1-46-4: 35~46頁】「平和教育登戸研究所資料館ガイドブック」【1-46-3】を配付し周知を行なっている。また、見学ツアーを月4回程度実施し、学生や一般利用者が参加できる企画を実施し、資料館について周知を図っている【1-46-4: 47~50頁】。 なお、今年度新入生に対し、新入生ガイダンス資料に資料館リーフレットを入れることとし、周知を図った。社会への公表方法としては、資料館の理念・目的は、資料館外周の看板、来館者配付用リーフレット【1-46-1】、大学ホームページ【1-46-2】等で、学外にも周知している。また、神奈川県博物館協会、川崎市域博物館等協議会、川崎市産業観光協議会に加盟し、交流を図ることで、社会に公開されている。	来館者数については、リピーターの増加もあり途切れることなく順調に増加している。マスコミの取材や、団体見学、登戸研究所や資料館に関する講演会の依頼も多いことから市民が高い関心を持っていることが分かる【1-46-4: 3頁】。	企画展や学内見学ツアーにおける本学学生の参加者が少ない。ホームページ公開、学内でのポスター掲示、各研究室へのチラシ配布、新入生ガイダンスでの周知以外の学生への周知や来館する手段を講じることを課題である。		企画展の継続実施により、資料館の理念・目的をより広く理解してもらおうと共に、資料収集・研究成果を発信できるように整備していく。また、学生が参加しやすい企画を工夫するなど、学生へのアピールに力を入れていく。	1-46-1 明治大学平和教育登戸研究所資料館リーフレット 1-46-2 平和教育登戸研究所資料館ホームページ「設立趣旨」 http://www.meiji.ac.jp/noborito/mean/index.html 1-46-4 2013年度平和教育登戸研究所資料館年次報告書
(3) 付属機関等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか						
a ●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【約300字】	教育・研究に関する年度計画書【1-46-5】や年次報告書【1-46-4】の作成の際、理念・目的に添って活動しているかを平和教育登戸研究所資料館運営委員会に於いて点検を行なっている。					1-46-4 2013年度平和教育登戸研究所資料館年次報告書 1-46-5 2014年度教育・研究に関する年度計画書

第2章 教育研究組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで簡条書きに	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 付属機関等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか							
a ①教育研究組織の設置状況は理念・目的に照らし、適切であるか。学術の進展や社会の要請と教育との適合性について配慮したものであるか。 ●教育研究組織は、当該大学の理念・目的を実現するためにふさわしいものであるか。 【約300字】	教育研究組織の編成は以下の通り。 1) 館長 館長は館務の総括者として、専任教授の中から学長の推薦で大学が任命している。任期2年で再任はさまたげない【2-46-1:51頁第4条】。 2) 教務事務室 ア 専任職員 教務事務室担当者2名が資料館事務を兼務し、必要に応じて生田キャンパスに勤務し、運営にあたっている。総務部生田キャンパス課が運営にあたり協力をしている【2-46-1:52頁第9条】。 イ 特別嘱託職員 学芸員資格を持つ職員3名が、来館者案内、資料収集、調査、保存、保守にかかる業務を行っている。 ウ 派遣職員 派遣職員1名が、来館者案内、資料整理業務を行っている。 3) 委員会 ア 平和教育登戸研究所資料館運営委員会 学部所属の教員と事務管理職計8名によって構成。年1～2回の定例会を開催し、活動計画と自己点検を実施している【2-46-1:51頁第5条】。 イ 各種委員会 (規程に基づく委員会) 企画展示専門部会(文学部教員・特別嘱託職員他)【2-46-1:52頁第8条】。 理念・目的との適合性として、収蔵資料の管理、展示、それを活用した教育普及は、館長を始め企画展示専門部会の専門的職務遂行能力に依拠して適切に遂行されている。調査・研究活動は、館長を始め企画展示専門部会員を中心に、学芸員資格を持つ特別嘱託職員が協力して実施している。また、資料収集や展示品貸借に関わり発生する他博物館、官公庁との折衝や書類作成などの業務は、特別嘱託職員及び専任事務職員が担い、円滑に遂行されている。 学術の進展や社会の要請と適合性については、資料館業務の質保証となる調査・研究活動の専門的な裏づけは、もっぱら館長及び展示専門部会の教員に委ねられている。		教育研究組織の改善については、数年経て状況を見て判断したい。		所蔵資料整理、調査結果整理と並行し、来館者の増加により案内業務も増加しているため、派遣職員の増員をし、対応を充実させたい【2-46-2】。	研究調査における専門職的位置付けは、もっぱら館長と展示専門部会に委ねられている。組織的な取組みについては、今後の状況をみて判断したい。	資料2-46-1(既出1-4) 2013明治大学平和教育登戸研究所資料館年次報告資料2-46-2(既出1-5) 2014年度教育・研究に関する年度計画書(単年度)
(2) 付属機関等の教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか							
a ●教育研究組織の適切性を検証するにあたり、責任主体、組織、権限、手続きを明確にしているか。 ●その検証プロセスを適切に機能させて、改善に結びつけているか。 【約500字】	教育研究組織の適切性については、自己点検評価にて検証している【2-46-1:53頁審議事項2】。	平和教育登戸研究所資料館運営委員会において、自己点検・評価を行なう機会が持たれている。					2-46-1(既出1-4) 2013年度明治大学平和教育登戸研究所資料館年次報告

第7章 教育研究等環境

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画			根拠資料 Alt+Enterで箇条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述		
(1) 教育研究等環境の整備に関する方針を明確に定めているか							
a ● 学生の学修、教員の教育研究の環境整備に関わる方針を、当該大学の理念、目的を踏まえて、定めているか。	資料館自体が戦争遺跡という特色から、収蔵資料を含め恒久的に保存と管理に努めていく。そのための適切な温湿度、害虫駆除等環境衛生面での管理を徹底していくことを方針としている。このことを教育・研究計画書に明文化している【7-46-1】						7-46-1(既出1-5) 2014年度教育・研究に関する年度計画書(単年度)
(2) 十分な校地・校舎および施設・設備を整備しているか							
a ● 方針に沿って、施設・設備、機器・備品を整備し、管理体制や衛生・安全を確保する体制を備えているか。	ア 収蔵室 収蔵資料の特質に応じて最適な条件を設定し、望ましい保存環境の維持に努めている。 イ 展示室 資料館として適切な室内環境を維持している。また、随時サイン表示類を更新し、整備している。 エ バリアフリー化の推進 エントランスから館内へのスロープを設置し、館内に段差はない。 オ 保守・管理 温湿度管理および害虫駆除等については、資料館特別嘱託職員、短期嘱託職員を中心に日常的に管理に努めている。資料館外周の雑草刈払い等は生田キャンパス課が協力している。なお、雑草を防止し、館外から虫の侵入を防ぐため、業者へ委託し、資料館東側にマジックサンド(地球に優しい雑草防止用砂)を敷設した【7-46-2:30頁】 カ 防災・安全確保 通常は守衛所と連携して防災、安全確保に努め、閉館後、外部業者による遠隔監視を行っている。	保守・管理については現場担当者と業者により、適切に管理されている。	現状の収蔵室では限界があるため、生田キャンパス内に収蔵庫を確保することが必要である【7-46-1】		施設内の温湿度を適切に保つために、専用の機器を購入してモニタリングし、空調の調節についてのデータを取る。また、展示ケース内については、調湿剤等の薬品を入れ、湿度を適切に保つ。写真フィルム等、特に温湿度管理が重要なものについては、保管庫等を整備して対応する。防虫駆除については、適切な防虫駆除方法をモニタリングの上、最も適切な方法を調査する【7-46-1】	資料収集・研究成果をデジタル化し、利用者が検索閲覧できるようなデジタルアーカイブを整備していく。また、学内に収蔵スペースを確保して、長期的な資料保存が可能な体制を整えたい【7-46-1】	7-46-1(既出1-5) 2014年度教育・研究に関する年度計画書(単年度) 7-46-2(既出1-4) 2013年度平和教育登戸研究所資料館年次報告

第8章 社会連携・社会貢献

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで簡条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか						
○平和教育登戸研究所資料館を通じた社会貢献活動	○平和教育登戸研究所資料館を通じた社会貢献活動 学長方針【8-46-3:27頁】において、「展示内容の充実と企画展の開催、各種出版物の刊行などを進めることで、学内における平和教育の質をさらに向上させるとともに、社会的にも本学の平和創造・平和教育への取組みの積極さをアピールしていきたい」と示した指針に基づき、通常展示のほか、企画展の開催（記念講演会、証言会含む）、月4回の学内見学ツアーの実施を行った。なお、生田キャンパスで開催した企画展のほか、陸軍中野学校の跡地に新設された中野キャンパスにおいて、企画展の一部をパネル展示し、サテライト展示を行った。また、キャリア教育の一環として、市内在住の中学生を対象に「仕事」について学習する機会を提供し、職場体験を受け入れるなど、社会貢献を行った。【8-46-2:26頁】教育・研究活動としては、学部間共通総合講座のほか、リパティアカデミーの講座を生田キャンパスにて開講し、リパティアカデミーオープン講座を中野キャンパスにて開講した【8-46-2:2頁】。2014年3月には通算来館者が3万1,000人に達した【8-46-2:3頁】					8-46-2（既出1-4） 2013年度 明治大学平和教育登戸研究所資料館 年次報告書 8-46-3（既出1-5） 2014年度 教育・研究に関する年度計画書
(検証システムと改善実績)	2013年度は学内遺跡の案内板の整備、資料館の英文名の確定などを行った。また、資料館のリーフレットとガイドブックを改定・増刷し、大学ホームページを改善・充実させてきた【8-46-1:4・5】。運営委員会においては資料館自己点検・評価報告書を作成・活用し、予算が大きいものについては年度計画を立案し、計画的に対応している【8-46-3】。資料館利用者の声は年2回発行する資料館だよりに公開し、他の来館者の多様な意見を通じ、各個人の平和に対する考えを深めることに寄与している【8-46-2:40頁】。		アンケートに寄せられた声からは、依然として大学や資料館自体の広報宣伝活動が効果が不十分であり、資料館の存在を社会・学内にアピールできていないことがわかる【8-46-2:2頁】。			8-46-1（既出1-1） 明治大学平和教育登戸研究所資料館（リーフレット） 8-46-2（既出1-4） 2013年度明治大学平和教育登戸研究所資料館年次報告書 8-46-4（既出1-3） 明治大学平和教育登戸研究所資料館ガイドブック 8-46-5（既出1-2） 明治大学平和教育登戸研究所資料館ホームページ http://www.meiji.ac.jp/noborito/index.html

第9章 管理運営・財務 1. 管理運営

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで箇条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	
(1) 大学の理念・目的の実現に向けて、管理運営方針を明確に定めているか。						
a ●意思決定プロセスや、権限・責任(教学と法人の関係性)、中長期的な大学運営のあり方を明確にした管理運営方針を定めているか。 ●方針を教職員が共有しているか。	旧日本陸軍の戦争史跡である資料館の特質を活用し、維持管理する体制を整備することを方針としている。長期的な管理運営方針の策定と大学構成員への周知としては、学長宛に教育研究計画を提出し、計画は全学に周知されている【9-46-1】。 意思決定プロセスの明確化としては、日常的な決定事項については館長との打ち合わせにて判断し、運営委員会において合意形成している。 運営委員会、館長の権限と責任については、「明治大学平和教育登戸研究所資料館規程」にて明確化している【9-46-2:51頁第4条】。					9-46-1(既出1-5) 2014年度教育・研究に関する年度計画書 9-46-2(既出1-4) 2013年度平和教育登戸研究所資料館年次報告書
(2) 明文化された規程に基づいて管理運営を行っているか						
a ◎関連法令に基づく管理運営に関する学内諸規程の整備とその適切な運用	法令に基づく管理運営に関する学内諸規定の整備とその適切な運用としては「明治大学平和教育登戸研究所資料館規程」に基づいて管理・運営をおこなっている【9-46-2:51頁第3条】。 館長等の権限と責任の明確化としては、資料館館長は「明治大学平和教育登戸研究所資料館規程」に「学長の命を受けて資料館の業務を総括し、資料館を代表する」と位置付けられている【9-46-2:1頁第4条】。 館長等の選考方法の適切性については、資料館館長は資料館規程に専任教員のうちから、学長の推薦により、理事会において任命することと規定されている【9-46-2:51頁第4条】。					9-46-2(既出1-4) 2013年度平和教育登戸研究所資料館年次報告書
(3) 付属機関等の業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか						
a ●事務組織の構成と人員配置の適切性 ●検証プロセスを適切に機能させ、改善につながっているか	事務組織の構成と人員配置の適切性について、専任職員は教務事務室の専任職員2名が庶務業務を担当し、必要に応じて資料館で勤務している。資料館では、学芸員資格を持つ特別嘱託3名が配置され、資料館案内業務、資料収集・整理を担当している。また日本近現代史部門を学ぶ大学院生を派遣社員として配置し、主に資料館案内業務と資料整理を行なっている。専任職員が常駐する体制は取れていない。 事務機能の改善・業務内容の多様化への対応策としては、業務内容の多様化については、年間の業務スケジュールを調整することで、過度の集中がないよう調整している。	日常業務で発生する問題点について連絡を取り合い、業務体制を確立しつつある。資料の取扱方針等、マニュアルを作成し、共通理解のもと業務を行っている。	突発事項については館長・教務事務長とその都度相談しながら対応にあたっている。経験を積み、業務マニュアルとして一層整備していくことが課題である。 現在、複数の団体による同時見学には、館長・資料館職員等で対応しているが、ガイド業務に人員が出払ってしまうと資料館の管理・運営体制に支障がでる場合があり、改善が必要である。			
(4) 事務組織の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか						
a (有効性、検証システムと改善状況) ●事務職員の資質向上に向けた研修などを行うことによって、改善につながっているか。					資料館の管理・運営体制について、学外の博物館・資料館の事例を学び(毎年資料館職員を学外施設に研修のため派遣している)、より効果的・効率的な体制を整備出来るようにしている。	積極的に来館者に展示解説を行なっていく「発信型」の資料館であることを維持・発展させるために、既存スタッフの研修と資料館展示と学内遺跡の解説・案内ができる新たなスタッフ・ガイドの養成に努めていく。

第10章 内部質保証

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料		
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。								
C列の点検・評価項目について、必ず記述してください								
(1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか								
a	◎自己点検・評価を定期的実施し、公表していること 【約400字】	来館者等のアンケートによる評価および、年次報告書を学内に配付し、広く評価を受けることで、資料館の質の向上を目指すことを方針としている【10-46-1】					10-46-1 (既出1-4) 2013年度平和教育登戸研究所資料館年次報告書	
(2) 内部質保証に関するシステムを整備しているか								
a	<ul style="list-style-type: none"> ●内部質保証の方針と手続を明確にしていること。 ●内部質保証をつかさどる諸組織(評価結果を改善)を整備していること ●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること ●学外者の意見を取り入れていること ●文部科学省や認証評価機関からの指摘事項に対応していること 【800字～1000字程度】	評価に関する委員会は以下の通り【10-46-1:51頁第5条】。 平和教育登戸研究所資料館運営委員会(館長=委員長), 副委員長, 学長指名選出委員, 学部からの選出委員, 事務管理職 計8名) 2013年6月5日に開催【10-46-1:53頁】 平和教育登戸研究所資料館運営委員会展示専門部会(館長=委員長), 委員長指名選出委員 計7名) 2013年4月26日開催【10-46-1:56頁】 評価報告書等の作成, 公表について、「2013年度平和教育登戸研究所資料館年次報告書」を作成し, 学内に配付する。資料館だよりに来館者のアンケートを紹介し, 配付及びホームページ上で公開している【10-46-1, 10-46-2】。					10-46-1 (既出1-4) 2013年度平和教育登戸研究所資料館年次報告書 10-46-2平和教育登戸研究所資料館ホームページ「資料館だより」 (http://www.meiji.ac.jp/noborito/report/pdf/vol_005.pdf)	
(3) 内部質保証システムを適切に機能させているか								
a		来館者アンケートや企画展等の行事毎にアンケートを行ない, 問題点を検証し, 日常的に館長と打合せを行ない, 迅速に反映している。また, 運営委員会において, 自己点検・評価する機会を設けている。資料館だよりを年2回作成し, 資料館利用者の声を公開している【10-46-2】。年次報告書を作成し, 運営委員会において自己点検・評価を行い, 教育研究年度計画書に反映し, PDCAサイクルを実施している。財務については, 大学が実施する法定監査を受け, 適切に処理されている【10-46-1】。	来館者の要望について, 日常的に館長と館職員が把握し, 適切な改善がなされている。	開館4年目を迎え, 運用実績を積み, より安定した運営を目指す。		来館者のアンケート等を継続して実施し, 常に問題点の把握と改善に努め, 実績を積んでいく。	来館者によるアンケートや, 活動記録をまとめた「年次報告書」を年度末に刊行し, 学内に配布すると共に, 運営委員会では自己点検を行う。その内容を次年度の活動計画に反映し, 資料館の理念目的に沿った円滑な活動を促進していく。	10-46-1 (既出1-4) 2013年度平和教育登戸研究所資料館年次報告書 10-46-2平和教育登戸研究所資料館ホームページ「資料館だより」 (http://www.meiji.ac.jp/noborito/report/pdf/vol_005.pdf)